

令和5年度 学校評価報告書

北海道札幌西高等学校長 藤 村 誠

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | | |
|-----------------|--------------------------|
| (1)開かれた学校づくり | (2)生徒の資質・能力の伸長を図る学習活動の充実 |
| (3)リーダーシップ教育の推進 | (4)キャリア教育の推進 |

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
PTAや学校評議員など関係団体等との連携	・ 輔仁会（同窓会）の全面協力による1学年キャリア探究学習の実施、西高会・振興会からの部活動等補助事業等は生徒の教育活動に大変プラスとなっている。 ・ 西高会の支援があり、アイルランドやシンガポールへの国際交流研修事業を今年度も実施できた。アイルランド研修では、現地でトラブルが発生したが、引率者を今回から2名にしたことで対応できた。	・ キャリア学習、国際交流、部活動支援等、輔仁会（同窓会）・西高会と学校とのコミュニケーションが充実していた。更に具体的な取り組みがあれば生徒への支援も含めてお手伝いしたい。 ・ これからも西高会、輔仁会（同窓会）、PTAの連携で、生徒への補助事業、教育活動を推進してほしい。 ・ 今後も活発な活動が行われることを期待している。
改善方策	・ キャリア教育、キャリア探究学習、海外研修等では、支援団体と連携して改善を加え、より一層の充実・発展に努める。 ・ アイルランド研修事業を持続的なものにするには、最低でも2名は必要である（英語が話せる教員、女子生徒対応として女性教員は必須条件か。教員が難しい場合の外部委託等の検討は可能か）。 ・ 現在の海外研修は、予算面から参加できる人数は限られてしまうので、現地に行かず札幌またはその近郊で参加できるプログラムも考えるべきか（留学生とのワークショップや合宿、海外からの訪問受け入れなど）。	
多様で質の高い「深い学び」を引き出す授業等の実施	・ ICT機器を利用した学習指導は、今後も職員全体で検討していく課題である。 ・ ChromebookではなくiPadへの変更を検討したが、現状の利用状況を踏まえても、機種変更のメリットは薄い。 ・ 1学年では、学習の定着度について、模擬試験や定期考査など、客観的なデータを分析し、その結果により、手立てを検討した。また、生徒個々の学習計画表の作成、担任や教科担任による面談、学年集会での講話などを実施した。引き続き、データの収集とその評価を繰り返す。一方、学年会議や担任会では、学習の定着度や学習状況について話し合う機会が少なかった。	・ オンライン、オンデマンドの使い分けなど、ICTについては効果を検証しながら、よりよい方法を見極めてほしい。 ・ 端末については、コストの問題もあると思うが、生徒に使い勝手の良さなどを尋ねて検討したらどうだろうか。 ・ ICTの利用について、教科によっては大変便利に活用されていると思っている。たまに見せてもらうと、子どもが作ったとは思えない出来栄の発表資料で感心する。 ・ コロナが流行していた時は、休んだ間もオンライン配信をよくしていただいたが、大雪などで急に休校になった時や、休校にはならなくても住んでいる場所によって登校が困難な生徒への配信などは難しいのだろうか。それとも、配信までしてもあまり効果がないということだろうか。 ・ 人生を有意義にする目的の質の高い授業を要望する。
改善方策	・ 今後も教科指導の工夫・改善に係る研修を活用し、西高スタンダードの継続・発展を推進したい。 ・ ICTの教員研修は全体で行うよりも、教科ごとに推進すべきか。ロイロノートを利用した授業者がごく少数であり、その有効性を広く周知して、まずは使ってみることを進めていきたい。また、本校の生徒の実態を踏まえると、オンデマンド方式での利用が向いているのではないかという意見もあり、検討したい。 ・ いよいよ来年度は1人1台端末保有完成年度である。機種変更については、3年目を終える来年度に向けて再度検討か。まずはICTを用いた授業改善を前提に、タブレットの機種を考えていく。	

	・学年会議や担任会で、学習の定着度や学習状況について話し合う機会を捻出するため、今多くの時間を割いている業務を再検討する。	
授業と個別学習を有機的につなげた学習体制の確立	・BYOD 2年目としてICTを活用する場面・機会が学校全体として増加してきている（授業やホームルーム、キャリア探究、総合的な探究の時間、学校行事、保護者懇談会、進路研修会、欠席連絡フォーム、Googleクラスルームなど）。 ・講習の目的・レベル設定・対象等をうまくコントロールすることができなかった部分が一部あった。目標としていた「受講生9割の出席」は、平均すると達成できなかった講習もあるが、平均して8割以上の出席率で、概ね計画通り実施できた。 ・1学年は、各学力層へのアプローチの一環として、冬期講習後期では、メンバーを超難関校志望者に絞り実施した。参加率、参加態度ともに良かった。 ・2学年は、2年前半まで土曜講習・夏期冬期講習での国数英の基礎固め、2年後半からの期間講習での理社の受験対策及び難関大指導準備という西高の進路指導部の講習計画に従って、充実した学習指導・進路指導ができています。模擬試験や講習参加率も悪くなかった。 ・進学講習に対する生徒のニーズは高い。申込案内で、講習担当教員を示してほしいという声もある。 ・1学年担任は、特に12月、土曜講習・保護者面談・冬期講習が重なり、非常につらい期間となった。	・進学校として、もっとも充実しなければならないと思う。 ・講習については、まず、教員の時間的な負担、教員間の業務負担の格差に十分留意して進めてほしい。 ・部活動の大会と模擬試験の日程の重なりは調整できないか。 ・家庭学習の補助として、つまずきやすい分野や大事なポイントのまとめのようなオンデマンド配信があったら面白いと思った。 ・土日、祝日などの自習室の開放を求める。 （関連して、「働き方改革」について） ・全国的に授業以外に様々な業務を抱えているため、教員が疲弊している。簡略化できることは何かを模索して進めてほしい。教員の健康維持が第一である。 ・教員の負荷、時間外労働については、十分に調査して、無理のないように、効率的に業務が行えるよう検討してほしい。
改善方策	・授業での指導方法の一つの手段としてのICT活用の研究、研修を継続して実施する。 ・高い学力上位層の集団が拡大していくように今後も支援する。学力下位層に対する個別対応は、今後も検討が必要である。 ・進学講習の設定意図などを明確にして、講習（計画・依頼）が円滑に進むようにする。 ・長期休業期間中の進学講習について、講習期間が週休日2日間を含めた日程で実施しており、講習担当者はかなりの負担となっている（講習前後の平日勤務があり連続勤務、家庭事情、ライフワークバランスがとれない）。これらの課題について、教員アンケートの実施や外部講師の依頼、講習の型のあり方（対面型に限らず、配信型、オンデマンド型など）等を検討していくべきか。	
自主的・自発的な活動の充実	・保護者や地域住民からも、学校祭はこれまで高い評価をいただいている。外部の意見や期待にも応えられる西高としての学校祭を実施していくべきではないか。 ・部活動の存廃について、生徒会執行委員会と協議しながら、現状把握から将来的な展望を示してきた。段階的に進めていく中で、来年度、いくつかの部活が統合や廃部とすることが決まった。	・西高祭は生徒、保護者のみならず、地域や進学を考えている中学生にも魅力的なものであってほしいと思う。西高らしさを大切にしてほしい。 ・行事は西高らしさの象徴でもあり、大切にしていきたい。 ・生徒の自主性や計画性を育てる点で、炊事遠足が大変良い行事だと思っている。なるべく続けてほしい。 ・部の改廃等が進められ、小中学校では部の地域移行に伴い、外部コーチによる指導が始まった。今後、高校でもそのような取り組みが始まると思うが、地域（学校）に貢献したい企業もあるので、学校側と連携をとって進めてほしい。 ・部活動は今後、外部指導者や部活動指導員等も検討する時期ではないか。積極的に外部の資源や卒業生を活用してはどうか。

改善方策	・学校祭の意義、西高校の学校祭の特色、生徒・教師にかかる負担を考慮しながら、大枠となる日程や具体的な問題解決を話し合う。職員反省、生徒反省をもとに生徒会執行委員会と協議し、職員会議で審議し、今後の方向性を提示する。 ・学校祭の3日間日程は、コロナ禍明けで久々に戻した形で実施したところであり、今年度を含め数年経緯を見てから検討してもよいか。 ・部活動改廃規程を新たに定めていく。	
探究的な教育活動の充実	・2学年の探究活動は充実した内容で実施できた。探究担当教員や学年団教員全員の協力で手厚く指導することができた。 ・相互に発表したり意見交換したりする中で、探究課題についてさらに深めることができた生徒が多く、また、課題発見・解決力、情報収集力、論理的思考力の向上を目指した活動を展開できている。 ・ルーブリックなどを活用して、評価基準に基づいた評価やその研究を行い、探究的な学習活動をさらに充実させていくことが重要である。 ・今年度も輔仁会（同窓会）の協力により、職業観・勤労観を育成することをねらいとして実施したキャリア探究学習により、情報収集力、コミュニケーション力、表現力の向上を目指した活動を展開することができた。	・全学年で実施されているが、探求学習は本人の進路選択に影響を与えていることを実感しており、生徒のキャリア形成にとって大変有意義な取り組みであると感じている。特に1年生のキャリア学習は輔仁会（同窓会）が受け皿となっているが、企業側の評価もかなり高いものがある。今後も協力を依頼する企業や日程等の具体的な調整を図りながら継続してほしい。 ・価値観が多様化してきている社会で、意見や思考が違う生徒の間で、課題解決へ向けて共に取り組んでいくカリキュラムは、非常に良い取り組みだと思う。勉強にかける時間も重要だが、人間力を養うことができる、こういった探究学習の時間をもっと増やしていく事も検討いただけるとありがたい。 ・キャリア探求が大変充実していると思う。きちんと取り組めば様々な力が身につく。
改善方策	・現在の形で2学年の探求は3年間実施した。総合的な探究の時間は、現在2・3学年で実施している。内容や指導体制について検証するとともに、令和7年度入学生からの教育課程に反映させるべく、現在、教育課程委員会でプログラムを含め検討（1年1単位、2年2単位の方角で）する。 ・自身の興味や関心から「問いを立てる」作業に時間がかかり、苦勞する生徒が一定数いるので、時期を区切って次のステップに進むような活動計画でもよいかもしれない。 ・キャリア探究活動は継続するが、開催時期に関しては検討課題である。来年度の開催時期は11月を予定している。	
高等教育機関等との連携	・大学説明会やオープンキャンパス等への積極的な参加を促した。 ・進路講演会、北大研究室訪問、東大ゼミ参加（札幌南高校で実施）などを通して、進路意識の高揚や適性に関する自己理解の深まりが見られた生徒も多かった。 ・課題探究型医療プログラム（TEMP）は、新指導要領下の指導にも対応べく内容の充実を検討し実施できている。	・大学側にもメリットがある活動なので、範囲をより広げて活動を進めるのが良い。 ・生徒がオープンキャンパスに参加し、研究テーマがおもしろかったという声があり、内容も良かったようだ。引き続き連携をお願いしたい。
改善方策	・進路意識の高揚や適性に関する自己理解の深まりが不足している生徒も多いので、啓発、相談を引き続き実施する。 ・進路講演会は、内容と対象生徒の検討を行う。	
公表方法	・自己評価、保護者評価を学校評議員会において、資料に基づき報告した。 ・学校評価報告書、自己評価、保護者評価、学校関係者評価を学校ホームページで公開した。	